

Accuphase

MULTICHANNEL CONTROL CENTER

マルチチャンネル・コントロールセンター

CX-260

取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属のお客様カードに必要事項を記入の上、お早めになるべく10日以内に返送ください。お客様カードと引きかえに品質保証書をお届けいたします。製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、当社品質保証部またはお求めの当社製品取扱店へ、直ちにご連絡ください。

尚、品質保証書につきましては日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

⚠ マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

⚠ 注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

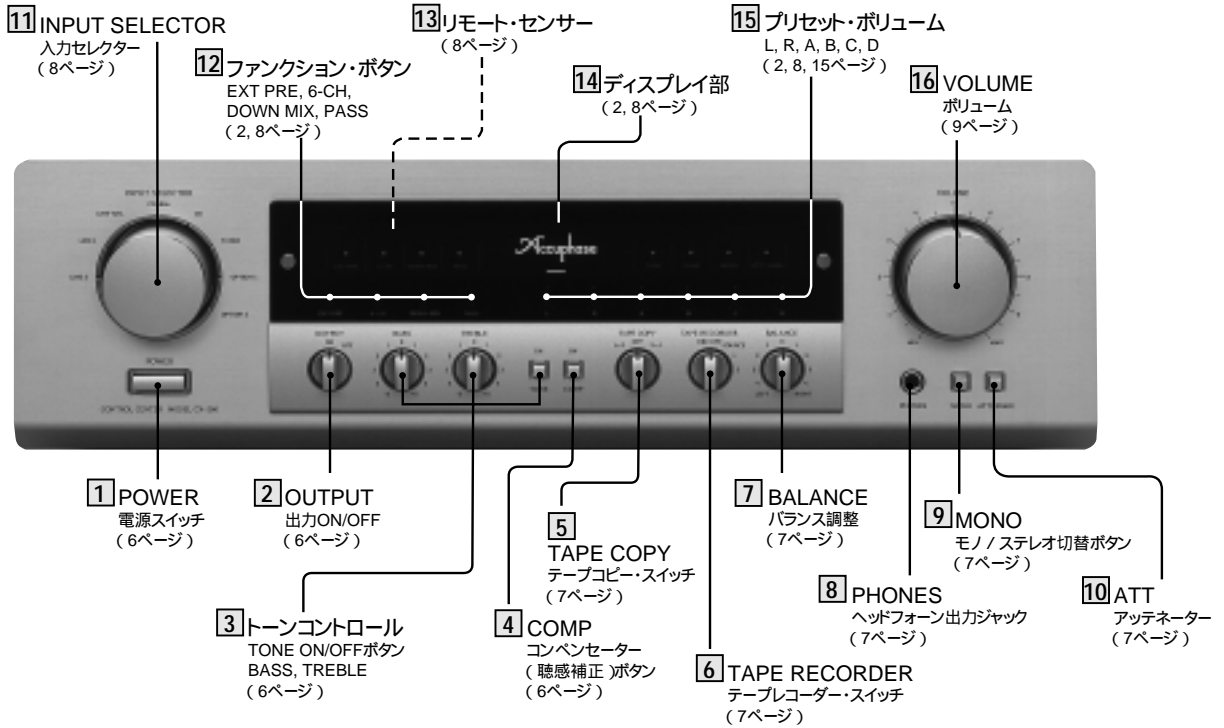
目次

1. 各部の名前	
フロントパネル、リアパネル	1
ファンクション・ボタン、ディスプレイ部、プリセット・ボリューム	2
CX-260の基本操作	2
2. ⚠ 警告 安全上必ずお守りください / ⚠ 注意	3
3. 接続図	
2チャンネル(ステレオ)演奏の接続例	4
付属品を確認します	4
6チャンネル(5.1ch)演奏の接続例	5
4. 各部の動作説明	6~10
5. リモート・コントロール	11
6. ご使用方法	
2チャンネルの演奏	12
CD / DVDプレーヤー(アナログ入力)の演奏	12
外部プリアンプでの演奏	12
テープレコーダーで録音・再生をする場合	13
6チャンネル(5.1ch)の演奏	14
6チャンネル・ソース ⇄ 4チャンネル演奏にダウン・ミックス	15
6チャンネルの各信号レベルをプリセットする	15
7. オプション・ボード	16
オプションの使用法	
CD / DVDなどをデジタル入力で演奏	16
アナログ・ディスク(AD)の演奏	17
オプションの種類	
ライン入力ボード LINE-10	17
デジタル入力ボード DAC-10	17
アナログ・ディスク入力ボード AD-10	18
オプションの取り付け方法	19
8. 保証特性	20
9. ブロック・ダイアグラム	21
10. 故障かな?と思われるときは	22
11. アフターサービスについて	23

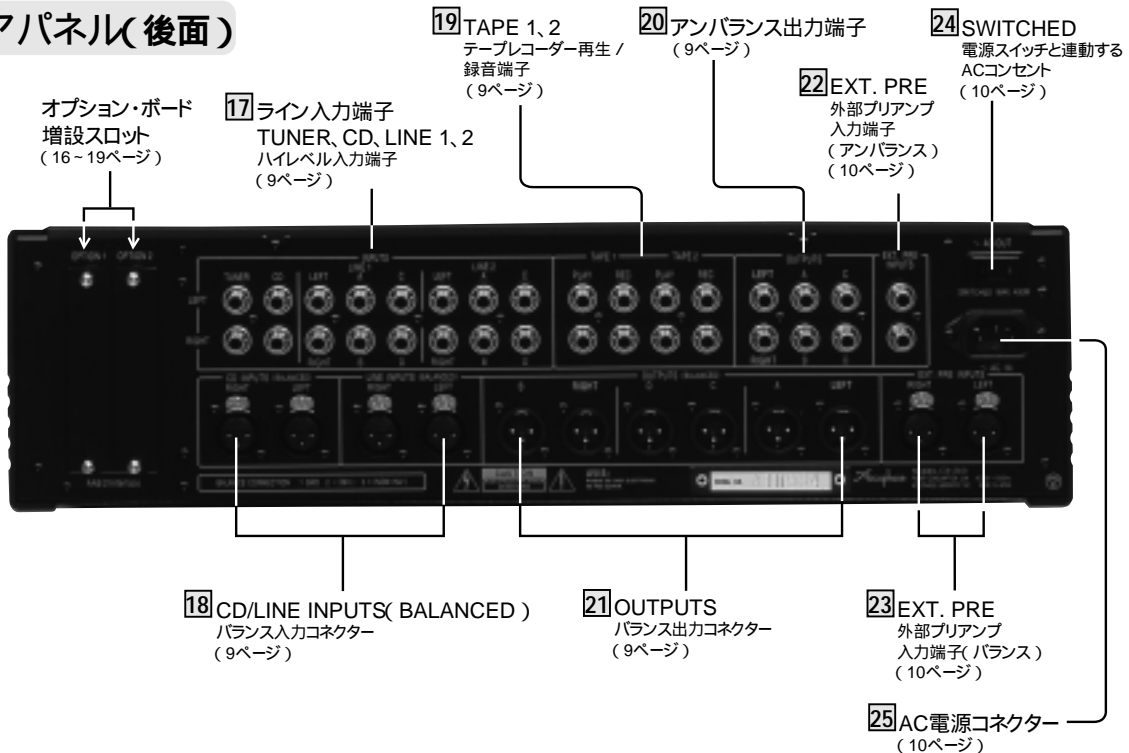
1. 各部の名前

詳しい説明は、各項目の()内のページを参照してください。

フロントパネル(前面)



リアパネル(後面)

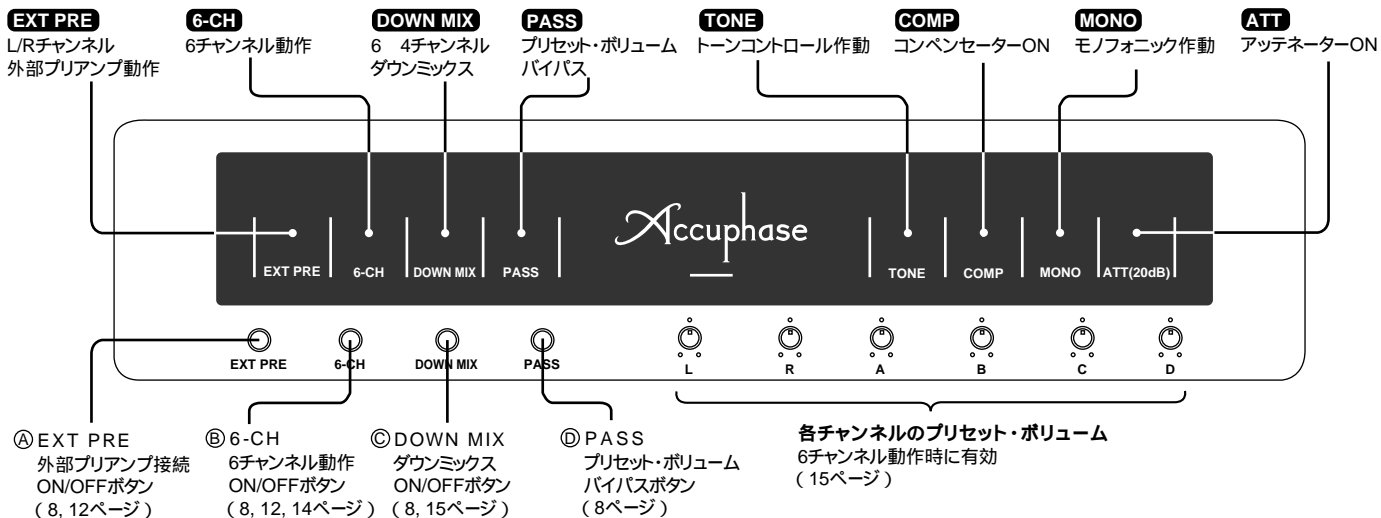


12 ファンクション・ボタン

14 ディスプレイ部

15 プリセット・ボリューム

(各ボタンの動作状態をLED点灯で表示します)



CX-260の基本操作

本機は2ch/6chコンパチブル・コントロールセンターです。2ch動作時と6ch動作時で操作が異なる機能もありますので、使用時にご注意ください。

2チャンネル(ステレオ)演奏..... 6-CHのLED 消灯 (12ページ参照)

LINE 1, 2以外の入力は、全て2チャンネル動作です。

LINE 1, 2の場合は、LEFT/RIGHTに入力して、6-CHボタンをOFF(LED消灯)にします。

OPTION 1, 2に増設したボードからの入力も2チャンネル動作です。

入力セクターでLINE 1, 2以外の入力時は、6-CHボタンは作動しません。

6-CHのLED消灯時は、DOWN MIX、PASSの機能は作動しません。各LEDも消灯のままです。

2チャンネル動作時、PASSのLEDは消灯していますが、プリセット・ボリュームは全てバイパスされています。

2チャンネル演奏時は、LEFT/A/Cの3チャンネル及び、RIGHT/B/Dの3チャンネルのラインアンプ回路が、それぞれ3パラレル接続となり、諸特性が向上します。

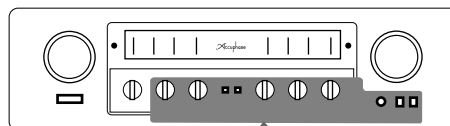
6チャンネル演奏..... 6-CHのLED 点灯 (14ページ参照)

入力セクターでLINE 1またはLINE 2を選択して、6-CHボタンをON(LED点灯)にすると、6チャンネル動作になります。

次の機能は、LEFT/RIGHTチャンネルのみ有効となります。

A/B/C/Dチャンネルの信号は適応しません。

TONE, COMP, TAPE COPY, TAPE RECORDER, BALANCE, PHONES, MONO, ATT



2. 警告 安全上必ずお守りください

ご使用の前に、この『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

付属以外の電源コードは絶対に使用しない。
ぬれた手で電源プラグを絶対に触らない。
電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしなない。
電源コードが傷んだら、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

脚の交換は危険ですから行わない。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

トップ・プレートや底板は絶対にはずさない。内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

“ヒューズの交換”など内部の作業はお客様が直接行なうことはできません。必ず当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

次の場合には、まず本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。発煙など異常がなくなったことを確認して、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

内部に水や薬品がかかった場合。
内部に異物(ヘアピン、釘、硬貨など)や燃えやすい物が入った場合。
故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
落としたり、破損した場合。

注意

長期間ご使用にならないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜いてください。

次の場所に設置しない。故障や火災の原因となることがあります。

通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
直射日光の当たるところ
暖房器具の近く
振動や傾斜のある不安定な場所

他の機器と直接重ねて使用しない。

入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切る。
RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(一瞬)が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となることがあります。

オプション・ボードを抜き差しする場合は、必ず電源を切る。

電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

オプションの増設について

CD/DVDプレーヤー、DAT、MDなどをデジタル入力で演奏する場合(16ページ)

別売のオプション、デジタル入力ボードDAC-10をリアパネルのスロットに増設してください。

サンプリング周波数96kHzまでのデジタル信号を入力して演奏することができます。

アナログ・ディスクを再生する場合(17ページ)

別売のオプション、アナログ・ディスク入力ボードAD-10をリアパネルのスロットに増設してください。

お手入れ

お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

出力端子などに接点保護剤などを絶対に使用しない。樹脂部が経年変化で破損して感電や故障の原因となることがあります。

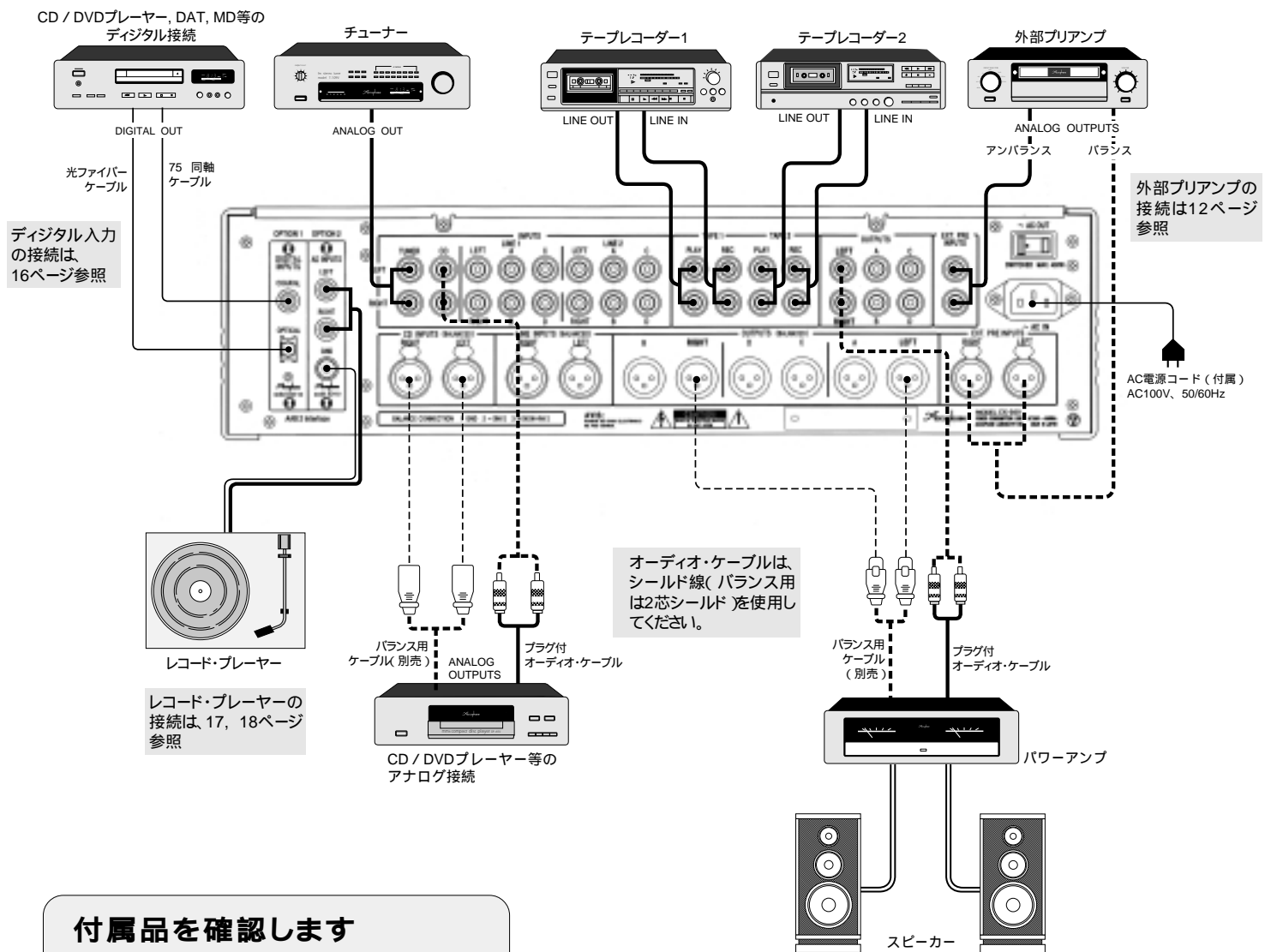
3. 接続図

⚠ 注意 : 接続するときは、必ず各機器の電源を切ってください。

2チャンネル(ステレオ)演奏の接続例 (12, 13, 16~18ページ参照)

注意 DAC-10とデジタル機器との接続は、75 同軸ケーブルまたは光ファイバーケーブルを使用します。アナログ入・出力の接続は、オーディオケーブルを使用しLEFT(左)RIGHT(右)を正しくつないでください。バランス用とアンバランス用ケーブルは、同一機器に同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

イラストはオプション(別売)を増設した場合の接続例
 OPTION 1:デジタル入力ボード [DAC-10]
 OPTION 2:アナログ・ディスク入力ボード [AD-10]



付属品を確認します

- 取扱説明書 1冊
- 安全上のご注意 1冊
- お客様カード 1枚
- AC電源コード(2m) 1本
- プラグ付オーディオケーブル(1m) 1組
- 単3形乾電池 2個
- リモート・コマンダー RC-20 1個

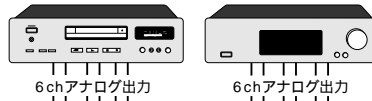
6チャンネル(5.1ch)演奏の接続例 (14, 15ページ参照)

外部入力機器は、CX-260のLINE 1またはLINE 2に入力します。

入力へ接続する機器によって、端子表示名が異なりますので、各取扱説明書を参照してください。

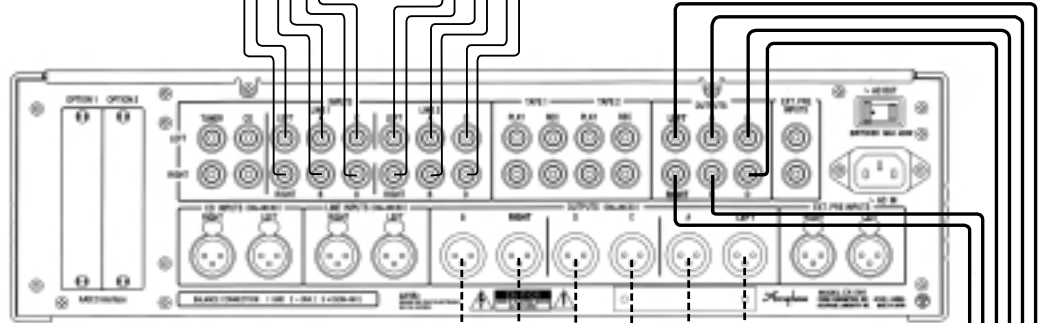
CX-260とPX-600の接続は、同じ名称の端子どうしを正しく接続してください。

DVDプレーヤーや外部デコーダーなどの6チャンネル音声出力をもつ機器



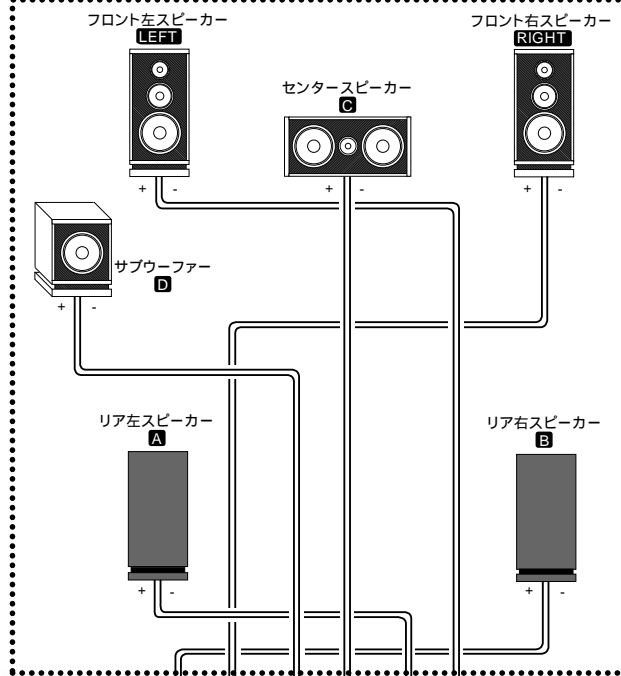
入力機器、スピーカーとCX-260/PX-600の端子名

入力機器、スピーカー	CX-260,PX-600の端子
フロント左チャンネル	LまたはLEFT
フロント右チャンネル	RまたはRIGHT
リア(サラウンド)左チャンネル	A
リア(サラウンド)右チャンネル	B
フロント・センターチャンネル	C
サブウーファー	D



スピーカー・システムは5.1chサラウンドの接続例です。サブウーファーは、アンプを内蔵していない(パッシブ型)スピーカーの例です。

パワーアンプ内蔵(アクティブ型)サブウーファーを使用する場合は、CX-260の"D"出力端子とサブウーファーの入力端子をプラグ付オーディオケーブルで直接接続してください。

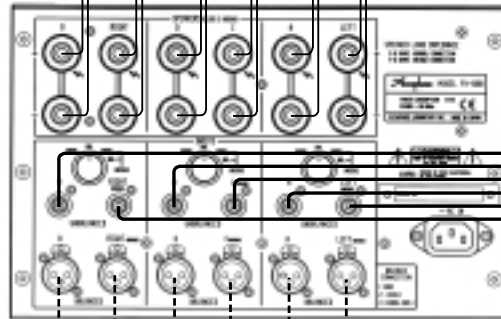


バランス用ケーブル(別売)

各チャンネルのスピーカー端子、スピーカーの極性(+、-)を正しく接続してください。

バランス用とアンバランス用ケーブルは、同一機器に同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

オーディオケーブルはシールド線(バランス用は2芯シールド)を使用してください。



パワーアンプ PX-600による接続

プラグ付きオーディオケーブル(別売)

4. 各部の動作説明

1 POWER 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで約4秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。

電源スイッチをOFFにすると、EXT PREボタンを押したときと同様に、接続した外部プリアンプの出力を選択することができます。但し、EXT PREのLEDは点灯しません。(12ページ参照)

2 OUTPUT 出力ON/OFFスイッチ

OUTPUTS端子からの出力信号をON/OFFするスイッチです。

ヘッドフォンだけで聴く場合には、出力をOFFにしてください。

3 TONE、BASS、TREBLE トーンコントロール

LEFT / RIGHTチャンネルのみ有効

TONE トーンコントロールON/OFFスイッチ



押しで「ON (ON) : TONEのLED点灯
再び押すと「OFF (OFF) : TONEのLED消灯

“ON”でBASS(低音)/TREBLE(高音)コントロールが有効です。

“OFF”にするとBASS/TREBLEツマミの位置に関係なく、フラットな特性が得られます。

BASS - 低音コントロール

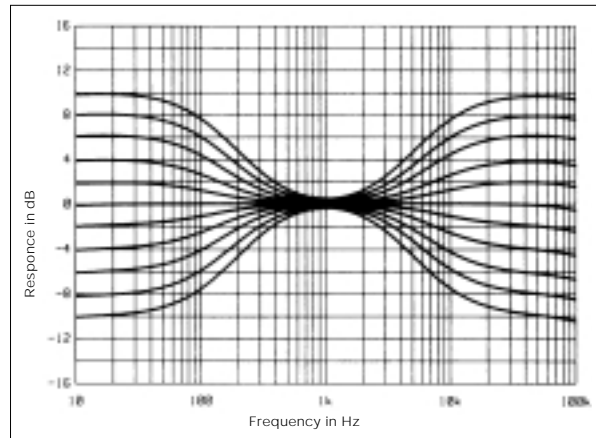
センター(0)から右にまわすと低音増強、左にまわすと減衰します。

ターンオーバー周波数 : 300Hz
変化量 : 50Hzで±10dB

TREBLE - 高音コントロール

センター(0)から右にまわすと高音増強、左にまわすと減衰します。

ターンオーバー周波数 : 3kHz
変化量 : 20kHzで±10dB



トーン・コントロール特性

4 COMP コンペンセータ-(聴感補正)ボタン

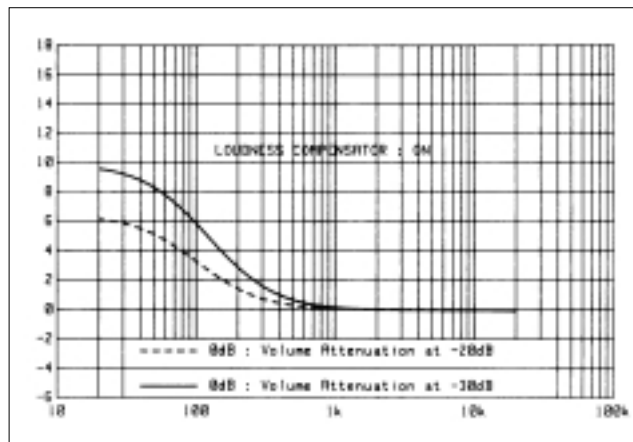
LEFT / RIGHTチャンネルのみ有効

小音量で聴く場合の聴感上のエネルギー・バランスを調整するスイッチです。人間の聴感特性はボリュームを下げたときには、そのときの音量によって低音・高音が不足してきます。この量感を補うために、本機は低音100Hzを+6dB上昇させることができます。

増強する量はボリュームを-30dB絞ったときの値で、音量を上げれば順次、自動的に増強量は減少します。



押しで「ON (ON) : COMPのLED点灯
再び押すと「OFF (OFF) : COMPのLED消灯



コンペンセーター特性

5 TAPE COPY テ - プコピ - ・スイッチ

LEFT / RIGHTチャンネルのみ有効

テープレコーダーを2台使って、相互にテープのコピーをするときにこのスイッチを使います。

1 2、2 1

TAPE 1に接続したテープレコーダーをマスターにして、TAPE 2のテープレコーダーにコピーする場合は「1 2」ポジションにします。逆の場合は「2 1」にします。

OFF

コピーしない場合には、このポジションにします。

6 TAPE RECORDER テープレコーダー・スイッチ

LEFT / RIGHTチャンネルのみ有効

REC OFF

通常(録音しない場合)はこのポジションにします。入力セクターで選択するプログラムソースを演奏しますが、録音用「REC」端子に信号は出力されません。

SOURCE

録音する場合にはこのポジションにします。入力セクターで選択されたプログラムソースを演奏すると同時に、「REC」端子に信号が出力され、録音が可能になります。

TAPE 1、2

テープ再生の場合には、リアパネルのTAPE 1、TAPE 2へ接続したテープレコーダーをこのスイッチで選択します。

7 BALANCE バランス調整

LEFT / RIGHTチャンネルのみ有効

LEFT / RIGHTチャンネルの音量バランスを調整することができます。

通常はセンター(0)で使用します。

8 PHONES ヘッドフォン出力ジャック

LEFT / RIGHTチャンネルのみ有効

ヘッドフォンのプラグをこのジャックに差し込んでください。

ヘッドフォンだけで聴く場合には、OUTPUTスイッチで出力をOFFにします。

音量調整はメインボリュームを使用します。

インピーダンス4~100 のヘッドフォンをご使用ください。

9 MONO モノ/ステレオ切替ボタン

LEFT / RIGHTチャンネルのみ有効

ステレオとモノフォニックの切り替えスイッチです。モノフォニックでは、LEFT / RIGHTチャンネルの信号がミックスされ、スピーカーの中央で聴くと音像はセンターに定位します。



押しで「MONO (モノフォニック) (■)»: MONOのLED点灯
再び押すとステレオ再生 (■)»: MONOのLED消灯

注意

録音をするとき「MONO」の状態では、レコーディング出力もモノフォニックになることがありますので、注意してください。

10 ATT アッテネ - タ -

LEFT / RIGHTチャンネルのみ有効

出力レベルを標準状態から瞬時に音量を下げるすることができます。減衰レベルは - 20dBです。



押しで「ON (■)»: ATTのLED点灯
再び押すと「OFF (■)»: ATTのLED消灯

11 INPUT SELECTOR 入力セレクト

リアパネルの各入力端子を選択しLEDの点灯で表示します。リモートコマンダーRC-20でも同様に切り替えることができます。

LINE 1、2を選択した場合、6-CHボタン“ON”で6チャンネル演奏が可能です。

CD、TUNER、LINE 1、2
一般的なアンバランス方式で、リアパネルの各入力端子へ接続した機器を選択します。

CD-BAL、LINE-BAL
リアパネルの入力端子へ、バランス方式で入力した機器を選択します。

OPTION 1、2
リアパネルのオプション・スロットに増設した入力端子を選択します。

このつまみには指標がなく、エンドレス(ストッパーのない)のロータリースイッチを使用しています。

12 ファンクション・ボタン

(2, 12, 14, 15ページ参照)

A EXT PRE

CX-260の回路をパスして、別のプリアンプ出力を選択し、OUTPUTSに出力します。
6チャンネル動作時は、フロントの2チャンネル(LEFT, RIGHT)に適応されますのでご注意ください。



押して“ON”(●) : EXT PREのLED点灯
再び押すと“OFF”(■) : EXT PREのLED消灯

B 6-CH: LINE 1, 2入力時のみ作動

入力セクターでLINE 1、2を選んだ時、2チャンネル/6チャンネルを切り替えます。



押して“6チャンネル”(●) : 6-CHのLED点灯
再び押すと“2チャンネル”(■) : 6-CHのLED消灯

C DOWN MIX: 6チャンネル時のみ作動

センターチャンネル“C”とサブウーファーチャンネル“D”をフロントL,Rチャンネルに振り分け、フロント/リア計4チャンネルで聞くことができます。



押して“ON”(●) : DOWN MIXのLED点灯
再び押すと“OFF”(■) : DOWN MIXのLED消灯

D PASS: 6チャンネル時のみ作動

ON時はプリセット・ボリュームが全てバイパスされます。OFF時はプリセット・ボリュームが有効になります。



押して“ON”(●) : PASSのLED点灯
再び押すと“OFF”プリセット可(■) : PASSのLED消灯

2チャンネル時、PASSボタンは作動しませんが、プリセット・ボリュームはバイパスされています。

13 リモート・センサ

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-20の赤外線信号を受信する窓です。リモート・コマンダーを使用するときは、発光部をここに向けてください。

14 機能ディスプレイ部

各スイッチやボタンの動作ポジションなどを、LEDの点灯により表示します。

15 プリセット・ボリューム (2, 15ページ参照)

LEFT、RIGHT、A、B、C、Dの各チャンネルの入力レベルに合わせてレベル調整が可能です。

2チャンネル使用時には、このボリュームはバイパスされます。

16 VOLUME **ボリューム調整**

6チャンネル全ての音量を調整します。
右へまわすと音量が増大し、左に回すと小さくなります。
リモート・コマンダーRC-20でも同様に作動させることができます。

17 CD、TUNER、LINE 1、LINE 2
ハイレベル入力端子

アンバランス方式の一般的なハイレベル入力端子です。

LINE 1、2は6チャンネル(5.1chアナログ音声)入力が可能です。

各端子は次のように接続します。

LEFT	: フロント左チャンネル
RIGHT	: フロント右チャンネル
A	: リア(サラウンド)左チャンネル
B	: リア(サラウンド)右チャンネル
C	: フロント・センターチャンネル
D	: サブウーファー

18 CD/LINE INPUTS(BALANCED)
バランス入力コネクタ

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用入力コネクタです。CDプレーヤーやチューナーなどのバランス出力を持つ機器を接続してください。

ピンの極性は、

: グラウンド
: インパート(-)
: ノンインパート(+)

となっていますので、ソース側の機器との極性を合わせて接続してください。

バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

19 TAPE 1 / TAPE 2
テープレコーダ再生 / 録音端子

2系統のテープレコーダーを接続することができます。

“PLAY”端子	テープレコーダーの“LINE OUT”
“REC”端子	テープレコーダーの“LINE IN”

REC端子の出力信号は、本機のボリューム、トーン、コンペンセーターなどの影響を受けません。

MONOボタンがモノになっていると、REC端子の信号もモノフォニックになることがあります。録音時にはご注意ください。

20 OUTPUTS
出力端子(アンバランス)

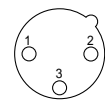
通常のピンプラグ付オーディオ・ケーブルで、パワーアンプの入力端子と接続します。

PX-600と接続する場合は、各チャンネルの端子名が合うように正しく接続してください。

21 OUTPUTS
バランス出力コネクタ

バランス伝送用出力コネクタです。

ピンの極性は、

	: グラウンド
	: インパート(-)
	: ノンインパート(+)

となっていますので、パワーアンプ側の極性を確認して接続してください。

バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

PX-600と接続する場合は、各チャンネルの端子名が合うように正しく接続してください。

22 EXT PRE 外部プリアンプ入力端子(アンバランス)

(12ページ参照)

外部のプリアンプ出力を接続します。アンバランス方式のハイレベル入力端子です。

外部入力信号はEXT PREボタン“ON”で、**20**アンバランス端子のLEFT / RIGHT端子に出力されます。

23 EXT PRE 外部プリアンプ入力端子(バランス)

(12ページ参照)

外部のプリアンプ出力を接続します。バランス方式のハイレベル入力端子です。

外部入力信号はEXT PREボタン“ON”で、**21**バランス出力端子のLEFT / RIGHT端子に出力されます。

24 SWITCHED 電源スイッチと連動するACコンセント

本機と接続する機器の電源をこのコンセントから取ると、電源スイッチをON/OFFすることにより、他の機器の電源も同時にON/OFFすることができます。

* 接続する機器の消費電力の合計が400Wを超えないようにご注意ください。

25 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。

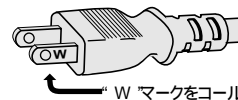


警告

電源は必ずAC100V、50/60Hz家庭用コンセントを使用する。

電源コードの極性表示について

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を厳密に管理して、電源プラグのコールド側に『W』マークを刻印しています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。



注意

室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。

大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。

本機のSWITCHEDコンセントは、左側がコールド側です。

5. リモート・コントロール

リモート・コマンダーRC 20の取り扱い方

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-20を使うと、離れたところから次の機能をコントロールすることができます。

INPUT SELECTOR - 入力セクター

リアパネルの各入力端子に対応するプログラム・ソースを選択します。各ボタンを押しますと、INPUT SELECTORツマミの外周に、選択された入力ポジションのLEDが点灯します。

VOLUME - ボリューム調整

本体ボリュームと連動しており(+)ボタンを押し続けると、ボリューム・ツマミが右に回転し音量が増大します。また、(-)ボタンを押しているときと左に回転し音量は減少します。

使用法

リモート・コマンダーの発光部を本体の [13] リモート・センサーに向けて、図の範囲内でお使いください。

落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。

直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。

電池について

電池の交換時期

電池は普通に使って約8ヵ月は動作しますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールできなくなります。

使用する電池は、単3形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。

⚠ 注意

乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。

電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り ⊕ (プラス) ⊖ (マイナス) を正しく合わせる。

新しい電池と、1度使用したものを混ぜない。

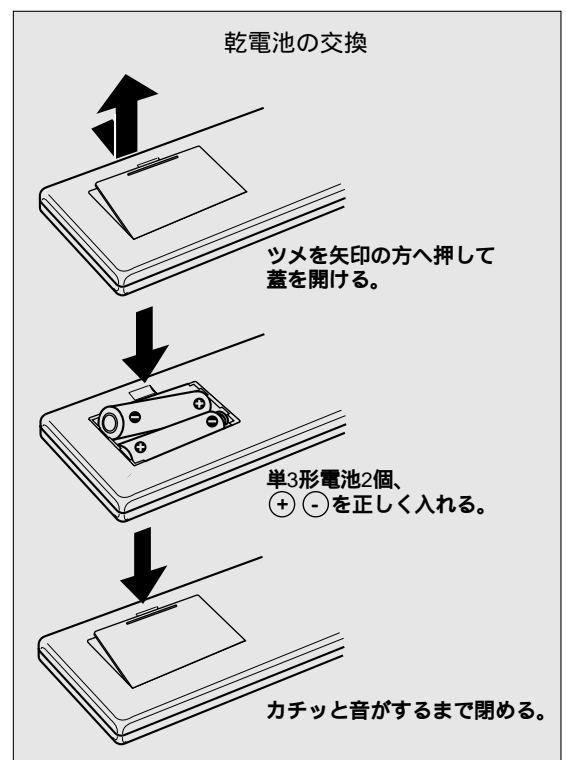
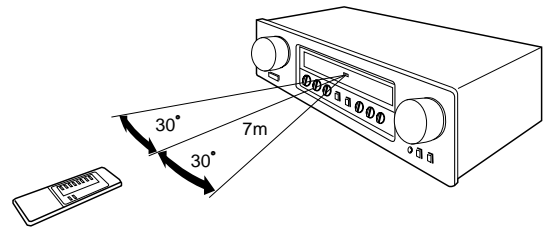
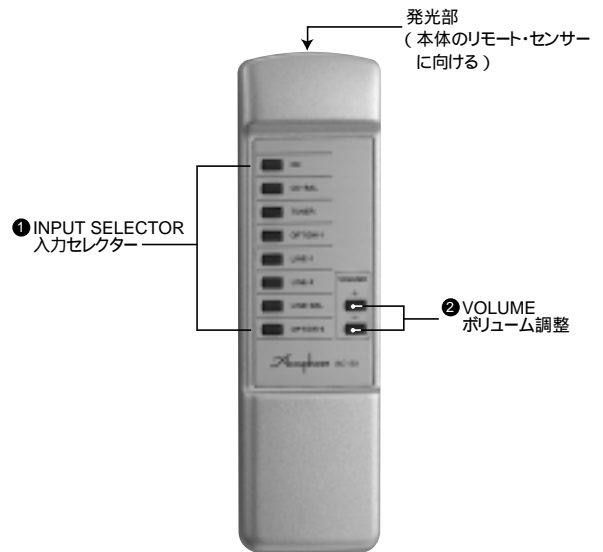
種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。

長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておく。アルカリ乾電池は、液漏れの原因となりますので使用しないでください。

万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

⚠ 警告

乾電池は充電しない。電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。



6. ご使用方法

使用される前につまみ、スイッチの位置を確認します。

VOLUME	: 下げた(左にまわしきった)状態
OUTPUT	: ON
TAPE RECORDER	: REC OFF
TAPE COPY	: OFF
TONE, COMP, MONO, ATT	: OFF(スイッチは■, LED消灯)
BALANCE	: センター
EXT PRE, 6-CH, DOWN MIX, PASS	: OFF(LED消灯)

2チャンネルの演奏

6-CHのLED消灯

接続は4ページ参照

LINE 1,2を使用する場合は、LEFT / RIGHT端子に入力して、6-CHボタンをOFF(LED消灯)します。

CD / DVDプレーヤー(アナログ入力)の演奏

CD / DVDプレーヤー・チューナーなどのアナログ出力をリアパネルのCD入力端子(またはTUNER、LINE)へ接続します。また、入力機器がバランス出力を装備している場合は、バランス用'CD/LINE INPUTS'端子をご使用ください。

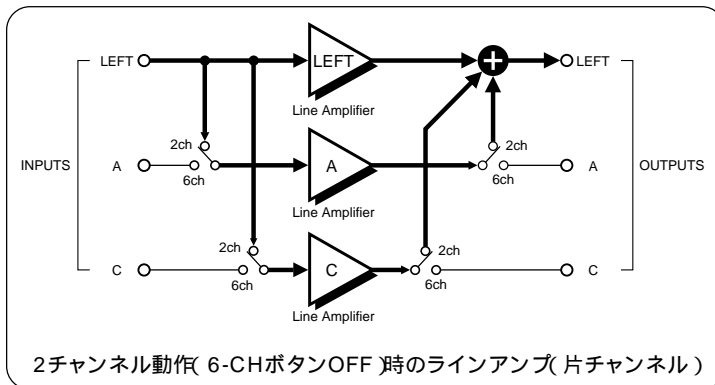
演奏の手順

ボリュームが下がっていることを確認し、本機と共に入力機器、パワーアンプの電源を"ON"にします。

入力セレクターでCD、TUNER、LINEなどの入力したポジションを選択します。

入力機器を演奏状態にして、VOLUMEを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを操作して再生状態を確認してください。

MONOボタンをON(モノフォニック)状態にし、音像が中央に定位することを確認したり、トーン、コンベンセーターなどの効き具合をお試しください。



外部プリアンプでの演奏

『EXT PRE』ボタンをONにすると、別系統のプリアンプに切り替えてステレオ演奏を楽しむことができます。

入・出力の接続

アンバランスの場合

22 EXT PRE INPUTSのLEFT / RIGHTに入力 ⇔ 20 OUTPUTSのLEFT / RIGHTから出力

バランスの場合

23 EXT PRE INPUTSのLEFT / RIGHTに入力 ⇔ 21 OUTPUTSのLEFT / RIGHTから出力

CD / DVDなどの入力機器は、外部プリアンプに接続します。

全てのコントロールは、接続した外部プリアンプで操作します。

ロジック・リレーコントロールにより、CX-260の電源をOFFにしても同じ接続状態を保ちます。

テ - プレコ - ダ - で録音・再生をする場合

リアパネルのTAPE 1(またはTAPE 2)にテープレコーダーを接続します。

REC 端子	テープレコーダーのLINE IN端子
PLAY 端子	テープレコーダーのLINE OUT端子

再生: プレイバック

TAPE RECORDERスイッチでTAPE 1(またはTAPE 2)に合わせ、テープレコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。

テープレコーダを再生だけに使用する場合は、各ライン入力端子を使うことができます。

録音: レコ - ディング

レコーディングの操作手順

録音するプログラム・ソースを入力セクターで選択し、スピーカーから音を出して確認します。

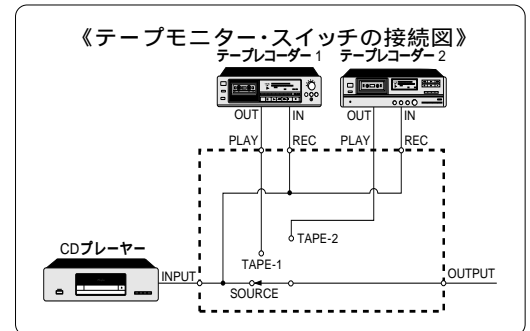
TAPE RECORDERスイッチを SOURCEポジションにします。テープレコーダーへの信号がREC端子から出力されます。

テープレコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。

本機のボリューム、トーン、コンペンセーターやバランスなどは、録音される音には関係しませんので音量を下げて静かに録音することができます。録音レベルは、レコーダー側で調整してください。

TAPE RECORDERスイッチをTAPE 1(またはTAPE 2)へ切り替えると、録音を続けながら、録音されたテープのモニターができます。(3ヘッド・テープレコーダーの場合)

TAPE 1,2の各REC端子には同じ信号が出力されますので、2台のテープレコーダーで同時録音も可能です。



注意

MONOボタンがON(モノフォニック状態)になっていると、録音出力もモノフォニックになることがあります。

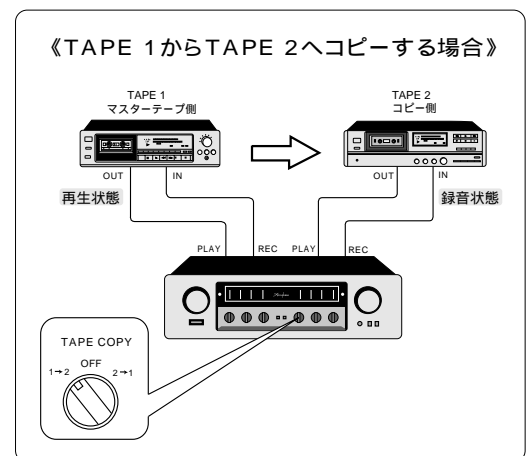
テ - プコピ -

本機にはTAPE COPYスイッチがついていますので、他のプログラム・ソースを聴きながら、まったく独立してテープレコーダー相互間でコピーすることが可能です。ただし、電源OFF時にはできません。

テープコピーの操作手順

TAPE 1側をマスターとしてTAPE 2へコピーする場合は、テープコピー・スイッチを“1 2”ポジションにします。逆の場合は“2 1”にしてください。マスター側のテープレコーダーを再生状態、コピー側のレコーダーを録音状態にすればコピーができます。

“1 2”でコピーをしている場合は、TAPE RECORDERスイッチを“TAPE 1”にするとマスター・テープの音がモニターできます。また、“TAPE 2”にするとコピー側のモニターができます。“2 1”のときは逆になります。



電源 OFF時のチューナー録音

本機はロジック・リレーコントロール回路を使用しています。このため、電源OFFの場合、リアパネルのTUNER端子に接続されている信号が、TAPEのREC端子に出力されます。入力セクターやTAPE COPYスイッチなどの位置に関係ありませんから、チューナーなどをタイマーで留守録音するときには、本機の電源を入れなくても録音が可能になります。

6チャンネル(5.1ch)の演奏

6-CHのLED点灯

接続は5ページ参照

接 続

DVDプレーヤーなどの5.1ch出力や外部デコーダー、サラウンド・プロセッサーなどの6チャンネルのアナログ音声出力をリアパネルのLINE 1(またはLINE 2)入力端子へ接続してください。

CX-260とPX-600の各入・出力端子、PX-600とスピーカー端子の各チャンネル接続は、リアパネルの表示に従ってそれぞれ正しく接続してください。

外部機器各チャンネルとCX-260, PX-600各端子は次のように接続します。外部機器の各チャンネル端子名は、それぞれの取扱説明書を参照してください。

外部機器、スピーカー	CX-260, PX-600の端子
フロント左チャンネル	LまたはLEFT
フロント右チャンネル	RまたはRIGHT
リア(サラウンド)左チャンネル	A
リア(サラウンド)右チャンネル	B
フロント・センターチャンネル	C
サブウーファー	D

注意：パワーアンプ内蔵(アクティブ型)サブウーファーを使用する場合は、CX-260の“D”出力端子とサブウーファーの入力端子をプラグ付オーディオケーブルで直接接続してください。

操作手順

- 1** VOLUMEが下がっていることを確認し、本機と共にソース側機器、パワーアンプなどの接続機器の電源を“ON”にします。
- 2** 入力セレクターでLINE 1(またはLINE 2) ポジションを選択します。
- 3** 6-CHボタンを押してON(LED点灯)にします。
- 4** ソース側の機器を演奏状態にして、VOLUMEを上げると演奏が聴こえてきます。
- 5** 各チャンネルのレベル・バランスは、プリセット・ボリュームで調整ができます。
- 6** TONE, COMP, TAPE COPY, TAPE RECORDER, BALANCE, PHONES, MONO, ATTの機能は、フロント側LEFT / RIGHT信号のみ有効です。

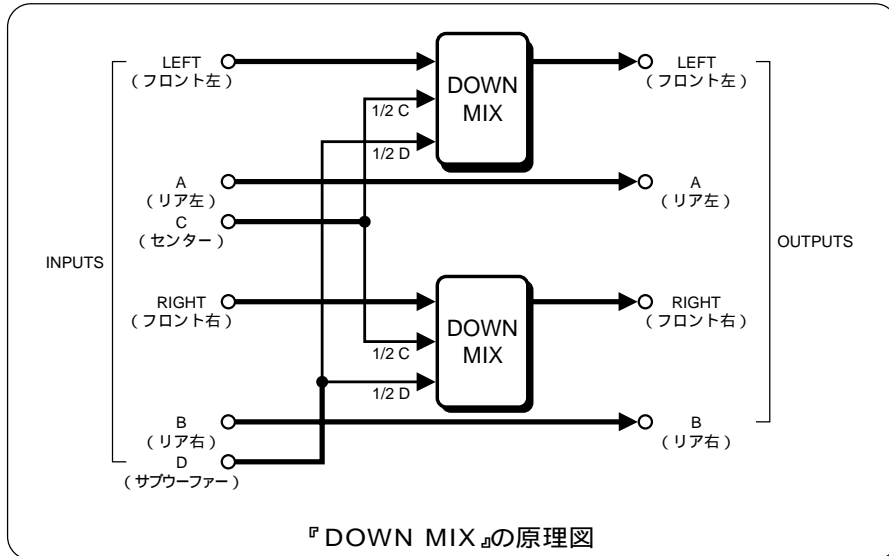
6チャンネル・ソース ⇔ 4チャンネル演奏にダウン・ミックス DOWN MIX機能

6チャンネル・ソースを4チャンネルにダウンミックスすることができます。
センターチャンネル「C」とサブウーファー・チャンネル「D」の信号を、フロント側LEFTとRIGHTチャンネルに振り分け、フロント2 / リア2の合計4チャンネルで演奏することができます。

接続と操作

6チャンネルの信号を入力します。
出力は、センター「C」とサブウーファー「D」チャンネルの接続、及びそれらのスピーカーは不要となります。
6-CHボタンをONにします。
DOWN MIXボタンをON(LED点灯)にします。

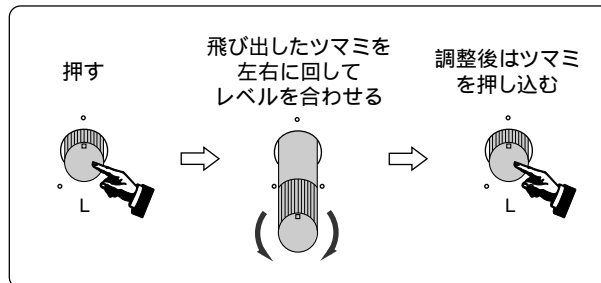
注意：DOWN MIXボタンがON時、C / Dチャンネルの出力端子の信号はOFFになりません。C / Dチャンネルの出力信号は使用しませんので、出力ケーブルは接続しないでください。



6チャンネルの各信号レベルをプリセットする [15] プリセット・ボリューム

LEFT, RIGHT, A, B, C, Dの各チャンネル入力信号に対し、それぞれのレベル・プリセットが可能です。各チャンネル・レベルをプリセット調整したあと、[16] ボリュームで全体の音量調整をします。

右に回して : 最大で減衰量0dB (通常レベル)
中央(センター・クリック) : - 6dB
左に回して : 最小で -



プリセット不要の場合は、PASSボタンをON(LED点灯)します。プリセット・ボリュームはバイパスされます。
2チャンネル演奏(6-CHボタンOFF)の場合、PASSのLEDは点灯しませんが、プリセット・ボリュームはバイパスされます。

7. オプション・ボード

CX-260には、デジタル入力ボード、アナログ・ディスク入力ボード、ライン入力ボードの3種類が用意されています。用途に応じて、リアパネルのオプション用スロット(OPTION 1または2)に増設してください。

オプション入力は全て2チャンネル演奏になります。

オプションを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切ってから行なってください。

空いているスロットに、任意のオプション・ボードを増設することができます。

アナログ・ディスク入力ボードAD-9、ライン入力ボードLINE-9も使用できます。

デジタル入力ボードDAC-10は、E-407、E-406V、E-306V、E-211、C-265の機種には使用できません。

オプションの使用方法

CD / DVDなどをデジタル入力で演奏

オプションで、デジタル入力ボード(DAC-10)を増設します。

CD / DVDプレーヤー、DAT、MDなどのデジタル出力(サンプリング周波数96kHzまでの音楽信号)を入力して演奏します。

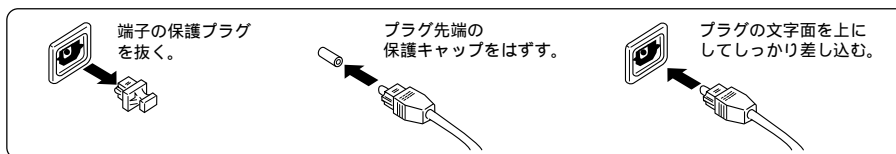
接続ケーブル

COAXIAL 端子

ピンプラグ付75 同軸ケーブルで接続してください。

OPTICAL 端子

EIAJ規格の光ファイバー接続用端子です。当社で、コアに石英ガラスを使用した光ファイバー(LG-10等)を別売しています。



演奏の手順

ボリュームが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れます。入力セクターで、DAC-10を増設したスロット(OPTION 1または2)を選択します。

入力機器を演奏状態にして、VOLUMEを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを操作して再生状態を確認してください。

注意

本機はOPTICAL優先自動切替方式を採用しています。

COAXIALとOPTICALの両端子に機器を接続することができます。

同時に両信号を入力した場合は、OPTICAL(光ファイバー)で入力したソースを優先して演奏します。

COAXIAL信号を演奏する場合は、OPTICALの接続をはずすか、OPTICALでの入力機器の電源をOFFしてください。

同軸ケーブルの信号を演奏中に、光ファイバーの信号が入ると光ファイバー入力の演奏に切り替ります。

アナログ・ディスク(AD)の演奏

オプションで、アナログ・ディスク入力ボード(AD-10)を増設します。AD-10を2枚増設することもできます。

挿入前に、ボードにあるディップ・スイッチの設定(18ページ参照)をします。

MM/MCの設定

MCの場合入力インピーダンスの選択: 10/30/100

サブソニック・フィルターのON/OFF

レコード・プレーヤーの出力ケーブルを入力端子へ正しく接続してください。プレーヤーの出力ケーブルと一緒に出てくるアース線はGND(グラウンド)端子へ接続します。

演奏の手順

ボリュームが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れます。入力セクターで、AD-10を増設したスロット(OPTION 1または2)を選択します。

レコード針をレコード面におろし、ボリュームを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを操作して再生状態を確認します。

レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動でスピーカーの振動板がゆれたりする場合は、サブソニック・フィルターをONに設定すると、可聴帯域への影響を軽減することができます。

オプションの種類

表示価格は税別です。

ライン入力ボード

LINE-10

希望小売価格 8,000円

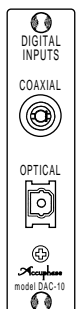


本体のINPUTSと同じ、アンバランス方式の一般的なハイレベル入力端子です。CDプレーヤー、チューナーなどアナログ信号の入力端子として使用します。

デジタル入力ボード

DAC-10

希望小売価格 50,000円



同軸、光ファイバーの入力端子を装備しています。デジタル機器のデジタル音楽信号を入力することができます。

接続ケーブル

COAXIAL : 75 同軸ケーブルで接続
OPTICAL : 光ファイバーで接続
(OPTICAL優先自動切替)

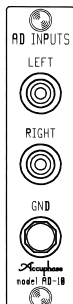
保証特性、適合規格

入力フォーマット : EIAJ CP-1201 / AES 3に準拠
サンプリング周波数 : 32kHz ~ 96kHz
デジタル入力 : COAXIAL 0.5Vp-p 75
OPTICAL - 27 ~ - 15dBm

アナログ・ディスク入力ボード

AD-10

希望小売価格 50,000円



アナログ・レコードを再生します。高性能ハイゲイン・イコライザーを搭載していますから、いかなるカートリッジにも対応することができます。

このボードを2枚増設すると、2系統のカートリッジに対応することができます。

LEFT, RIGHT - アナログ・プレーヤー - 入力端子

この入力端子には、アナログディスク・プレーヤーの出力ケーブルを接続します。

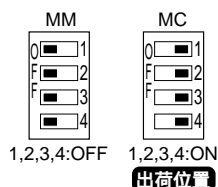
GND - アース端子

アナログ・プレーヤーの出力ケーブルと一緒に出てくるアース線を接続します。

挿入前に、ボード上にあるディップ・スイッチの設定をします。

注意 スイッチの各キーは、先の細いもので完全にセットしてください。指定以外の設定では所定の特性を得られません。

S1、S2:MM/MC - イコライザーゲインの切替



MM: 高出力電圧のMM型カートリッジ

ゲイン : 36dB

入力インピーダンス : 47k

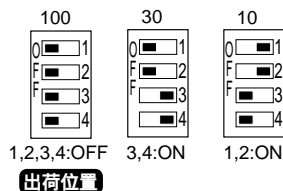
MC: 出力電圧が低いMC型カートリッジ

ゲイン : 62dB

入力インピーダンス : S3で切り替え

両スイッチとも必ず同じ設定にしてください。

S3:MCの入力インピーダンスの選択



一般的には、MCカートリッジの内部インピーダンスが

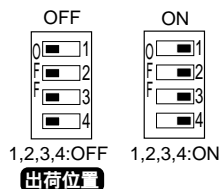
20 以上 : 100 に設定

20 以下 : 30 または10 に設定

カートリッジの内部インピーダンスの2~3倍以上を目安にしますが、実際に試聴して良い音質の得られるインピーダンスを決定してください。

S3で左右チャンネル同時に設定されます。

S4、S5:サブソニック・フィルターのON/OFF



このフィルタは、超低域25Hz以下を -12dB /

octaveという急峻な特性でカットし、超低域ノイズが

可聴帯域内へ悪影響をおよぼすことを防ぎます。レ

コードに大きな反りがあったり、超低域の振動により

ウーファーがゆれたりするとき大変有効です。

両スイッチとも必ず同じ設定にしてください。

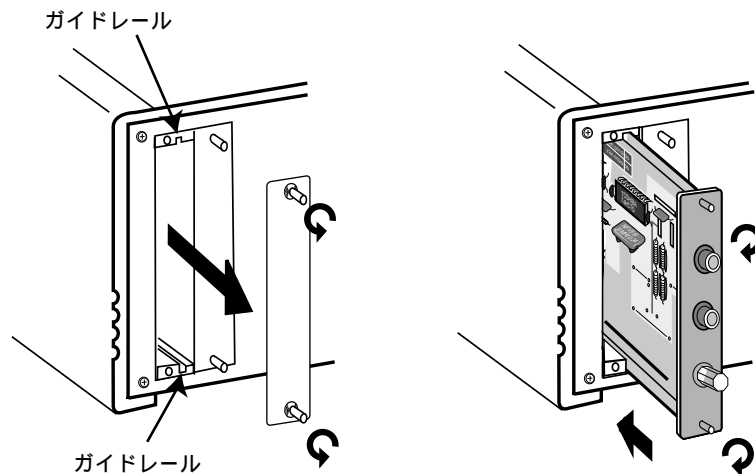
オプションの取り付け方法

CX-260の電源スイッチをOFFにします。

リアパネルのオプション用スロットのサブパネルをはずします。

CX-260挿入口の上下のガイドレールに沿って、オプション・ボードを挿入します。コネクタに当たって止まったら、少し力を入れてコネクタを完全に差し込みます。(パネル面が同一になればOKです。)

上下のネジ2カ所で確実に固定します。



*挿入のイラスト図は、AD-10を示します。

⚠ 注意

オプションを抜き差しするときは、必ずCX-260の電源を切る。電源を入れたまま抜き差ししますと、故障の原因となることがあります。

部品面やハンダ面、コネクタの接点部分を手で触らない。接触不良や回路が故障する原因となることがあります。ボードを持つ場合にはプリント板の外周やパネル部を持ってください。オプションの取り付けネジ(2カ所)は手で完全に締める。締めつけが不十分ですと、端子がグランドから浮いて接触不良となり、故障の原因となることがあります。

8. 保証特性

*保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる

周波数特性

BALANCED/UNBALANCED INPUT
 3 ~ 300,000Hz +0 - 3.0dB
 20 ~ 20,000Hz +0 - 0.2dB

全高調波ひずみ率(全ての入力端子にて)
 0.005%

入力感度・入力インピーダンス

入力端子	入力感度		入力インピーダンス
	定格出力時	0.5V出力時	
BALANCED	252mV	63mV	40k
UNBALANCED	252mV	63mV	10k

定格出力・出力インピーダンス

BALANCED/UNBALANCED OUTPUT 2V 50
 TAPE REC 252mV 200

S/N・入力換算雑音

入力端子	入力ショートIHF-A補正		EIA S/N	残留ノイズ
	定格出力時S/N	入力換算雑音		
BALANCED	106dB	- 118dBV	96dB	1.2 μ V
UNBALANCED(2ch)	120dB	- 132dBV	96dB	1.2 μ V
UNBALANCED(6ch)	119dB	- 131dBV	95.5dB	1.7 μ V

最大出力レベル(ひずみ率 0.005% 20~20,000Hz)

BALANCED/UNBALANCED OUTPUT : 5.0V
 TAPE REC : 5.0V

最小負荷インピーダンス

BALANCED/UNBALANCED OUTPUT : 600
 TAPE REC : 10k

ゲイン

BALANCED/UNBALANCED INPUT BALANCED/UNBALANCED OUTPUT :18dB
 BALANCED/UNBALANCED INPUT REC OUTPUT :0dB

ラウドネス・コンペンセーター

+ 6 dB (100Hz)

トーン・コントロール

ターンオーバー周波数および可変範囲

低音(BASS) : 300Hz \pm 10dB(50Hz)
 高音(TREBLE) : 3kHz \pm 10dB(20kHz)

アッテネーター - 20dB

ヘッドフォン端子 適合インピーダンス 4~100

電源 100V 50/60Hz

消費電力 25W

最大外形寸法

幅475mm x 高さ150mm x 奥行405mm

質量 17.5kg

付属リモート・コマンダー RC-20

リモコン方式:赤外線パルス方式
 電源:DC 3V・乾電池 単3形2個使用
 最大外形寸法:55mm x 194mm x 18mm
 質量 :100g(電池含む)

本機の特長および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

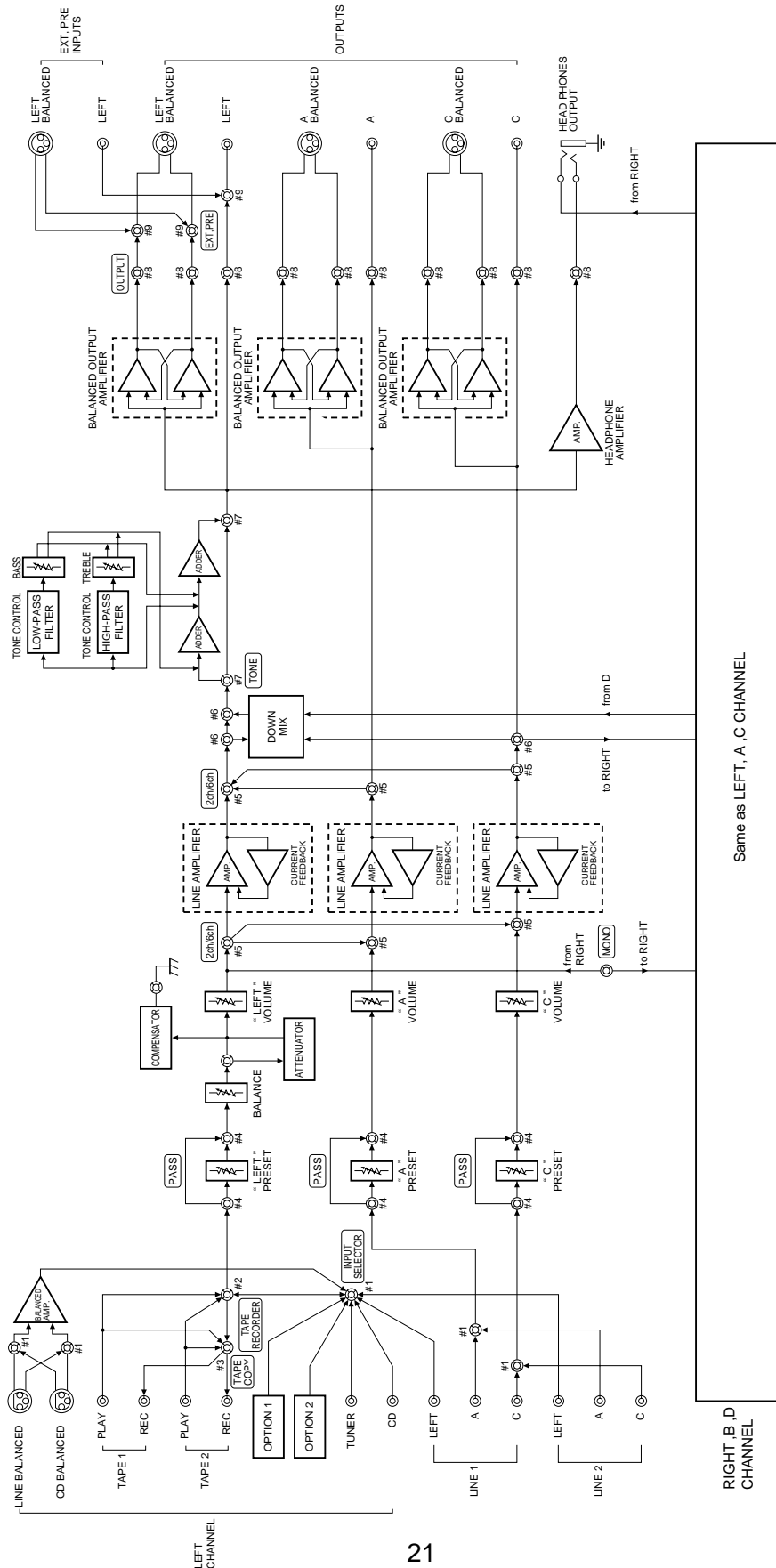
著作権について

放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には、音量に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホーンをご使用になるのも一つの方法です。

9 ブロック・ダイアグラム



10. 故障かな？と思われるときは

故障かな？と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。これらの処置をしても直らない場合には、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。



注意

：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない

電源コードが抜けていませんか。

音がでない

ソース側機器やパワーアンプの電源は入っていますか。
接続コードは正しく接続されていますか。
入力や出力切替スイッチの位置を確認してください。

片側または1つのスピーカー
から音が出ない

接続コード、スピーカー・コードは正しく接続されていますか。
ソース側機器や本機のスイッチ類は正しい位置ですか。
(バランスの位置など)

本機とパワーアンプ間の接続コードを左右入れ替えてください。

同じ側から音がでない.....パワーアンプやスピーカー側に原因が考えられます。

左右逆の状態になる.....本機やソース側機器に原因が考えられます。

次に本機への入力接続コードを左右入れ替えてください。

同じ側から音がでない.....本機に原因が考えられます。

左右逆の状態になる.....接続コードやソース側機器に原因が考えられます。

リモートコマンダーで操作できない

電池は入っていますか。

新しい電池に交換してみましょう。

受光部付近に障害物はありませんか。

11. アフターサービスについて

保証書

保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたします。
 保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。
 保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。
 オプション・ボードやオプション・ユニットにはお客様カードは付属していません。

保証期間が過ぎてしまったら

修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
 補修部品の保有期間は通産省指導により、製造終了後最低8年間となっています。
 使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。

その他

改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。
 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
 AC100V以外(海外)では使用できません。

保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

ご質問、ご相談は当社品質保証部または当社製品取扱店にお問い合わせいたします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
 〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
 TEL 045(901)2771(代表)
 FAX045(901)8995

修理依頼の場合には

“故障かな?と思われる場合には”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

モデル名、シリアル番号	ご住所、氏名、電話番号
ご購入日、ご購入店	故障状況:できるだけ詳しく

梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2 14 10

〒225 8508 TEL(045)901 2771(代)